

2021/02/15 (月)

朝の礼拝

聖書 ルカによる福音書 20章22-25節 (新約聖書149頁)

「ところで、わたしたちが皇帝に税金を納めるのは、律法に適っているでしょうか、適っていないでしょうか。」イエスは彼らのたくらみを見抜いて言われた。「デナリオン銀貨を見せなさい。そこには、だれの肖像と銘があるか。」彼らが「皇帝のものです」と言うと、イエスは言われた。「それならば、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」

自由な世界

英和女学院の生活の中で印象に残るのは体育祭と英和祭です。特に英和祭の昼に行われる有志ステージは歌い、奏で、舞い、演じる皆さんがとても生き生きしています。フロアから応援する歓声とステージが一体となった瞬間は、驚きのあまり校長だということを忘れそうになります。

歌声を合わせ、奏で、楽の音を交わす、踊り、舞い、描くなど、さらに自然のオブジェなども含めて、どんな時代にも人間は思いや願いを自由に表現してきました。近代以降は写真、映画、アニメ、ドキュメントなどの映像、そしてフェイスブック、ツイッター、インスタなどソーシャルメディア、ドローンの映像までがツールとなりました。

近代国家は法によって秩序が保たれています。しかしそれを行うのは人間です。時に権威や権力によって、人間は人間を抑圧します。大切なのは人種、民族、国家、宗教の違いによる抑圧から解放され、ひとりひとりの自由が保障され、互いに支え合う社会を求め続けることです。

英和女学院が毎朝、イエスの言葉に耳を傾けるのは自由な世界を求め続けているからです。それは互いに愛し合うことが互いを癒やし、励まし、勇気と希望を与えると信じているからです。どんな偏見や誹謗中傷、差別があっても、自由な世界を求めるパフォーマンスは輝き続け、私たちの明日を照らします。

(しばらく黙祷しましょう)

祈禱 祈りましょう

英和女学院、英和生を愛し、励まされる主よ。

今、タイ、ミャンマーなどの世界の国々、また日本でも偏見や差別によって抑圧され、自由を奪われた人々が解放を求めています。どうか私たちが与えられた自由を互いに愛し合うために用いることができるように導いてください。どうか今日一日もすべてをあなたに委ね、安全で健康な学校生活を送り、自ら学び、学び合い成長させてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン